18　　欲深い老僧　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文法　助詞④　係助詞

読解 行動の理由をつかむ

高齢のが寺の別当になると言うので、それに反対する弟子たちは架空の夢の話をしてやめさせることにした。

㋐日ごろ経て後、静かなる時、ひとりの弟子言ふやう、「過ぎぬる夜、いと心得ぬ夢なん見え侍りつる。この庭に、色々なる鬼の恐ろしげなる、あまたで来て、大きなるを塗り侍りつるを、あやしく覚えて問ひつれば、鬼のいはく、『この坊主の律師のなり』と答ふるとⓐなん見えつる。何事にⓑかは、深き罪おはしまさん。この事心得ず侍るなり」と語る。すなはち、驚き恐れんと思ふほどに、耳もとまで笑みまげて、「この所望のふべきにこそ　　　。披露なせられそ」とて、拝みければ、①すべて言ふはかりなくてやみにけり。

②智者なればこそ、この律師までものぼりけめ、年七十にてこの夢をびけん、いと㋑心憂き貪欲の深さなりかし。

* 語注

証空律師＝伝不詳。

別当＝寺務を統括する職。

坊主＝僧坊の主。

料＝ため。

言ふはかりなくて＝言う手だてもなくなって。

【原文】

日ごろ経て後、静かなる時、ひとりの弟子言ふやう、「過ぎぬる夜、いと心得ぬ夢なん見え侍りつる。この庭に、色々なる鬼の恐ろしげなる、あまた出で来て、大きなる釜を塗り侍りつるを、あやしく覚えて問ひつれば、鬼のいはく、『この坊主の律師の料なり』と答ふるとなん見えつる。何事にかは、深き罪おはしまさん。この事心得ず侍るなり」と語る。すなはち、驚き恐れんと思ふほどに、耳もとまで笑みまげて、「この所望の叶ふべきにこそあらめ。披露なせられそ」とて、拝みければ、すべて言ふはかりなくてやみにけり。

智者なればこそ、この律師までものぼりけめ、年七十にてこの夢を悦びけん、いと心憂き貪欲の深さなりかし。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

〔　　　　〕は〔　　　　〕が驚き恐れると思い、〔　　　〕が〔　　　〕を用意するという〔　　　〕について話したが、〔　　　　〕は〔　　　　〕がうに違いないと逆に喜んだ。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（㋑は終止形でよい）。〈４点×２〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ・ⓑの結びの語を抜き出し、それぞれ文法的意味と活用形を答えよ。〈４点×２〉

ⓐ〔　　　　　　　　〕〔　　　　　　　　・　　　　　　　　形〕

ⓑ〔　　　　　　　　〕〔　　　　　　　　・　　　　　　　　形〕

問四　文中の空欄に当てはまる語句を答えよ。〈３点〉

〔　　　　　　　　　　　　　〕

問五　チェック問題　［助詞④　係助詞］

次の文は、Ａ「結び」が流れているもの、Ｂ結びの語が省略されているもの、のいずれか。それぞれ記号で答えよ。〈1点×3〉

１　ほかよりたる者などぞ、「は何にかならせたまひたる」など問ふに、…（枕草子）

２　中納言はまだ参らせ給はぬにや。（堤中納言物語）

３　たとひ耳鼻こそ切れすとも、命ばかりは、などか生きざらむ。（徒然草）

１〔　　　〕　２〔　　　〕　３〔　　　〕

問六　傍線部①とあるが、弟子がこのようになったのはなぜか。三十字以内で答えよ。〈12点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　傍線部②を現代語訳せよ。〈６点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問八　本文の内容に合致するものを一つ選べ。〈10点〉

ア　証空律師の別当への執着は相当強く、それが罪業となっても構わないと言ったため、弟子たちは説得をあきらめた。

イ　弟子の妨害にも屈しない証空律師に弟子たちも心を動かされ、出世の手助けをすることにした。

ウ　弟子たちの心配をよそに、証空律師は後世における出世のことばかりを考えていた。

エ　鬼の話を出されても自分の所行に不審を抱かないほど、証空律師の心は欲に満ちていた。

〔　　　〕

【解答】

問一　弟子／律師／鬼／釜／夢／律師／所望

問二　㋐＝数日　㋑＝つらい・情けない〈４点×２〉

問三　ⓐ＝つる／完了・連体形　ⓑ＝ん／推量・連体形〈４点×２〉

問四　あらめ（あれ）〈３点〉

問五　１＝Ａ　２＝Ｂ　３＝Ａ〈１点×３〉

問六　証空律師が夢の内容に驚き恐れると思ったが、逆に喜んだから。（29字）〈12点〉

問七　智者であるからこそ、この律師にまでも昇進したのだろうが、〈６点〉

問八　エ〈10点〉

【現代語訳】

数日たって後、静かである時に、一人の弟子が（律師に）言うには、「この間の夜、よくわからない夢が見えました。この庭に、さまざまな鬼で恐ろしそうな鬼が、たくさん出て来て、大きな釜を塗りましたので、不思議に思われて尋ねたところ、鬼が言うには、『この僧坊の主である律師のため（の釜）だ』と答えるというのが（夢で）見えた。どのようなことに、深い罪がおありになるのだろうか。この事がわからないのでございます」と語る。（弟子は僧が）すぐに、驚き恐れるだろうと思っているうちに、（僧は有頂天になって）耳もとまで口を開くほど大きく笑って、「私の望みが実現するに違いないということだろう。他言をしなさるな」と言って、拝んだので、（弟子は）言う手だてもまったくなくなって黙ってしまった。

　智者であるからこそ、この律師にまでも昇進したのだろうが、年齢が七十歳でこの夢を喜んだようなことは、たいそう情けない貪欲（欲望のままに物事に執着すること）の深さであることよ。

【補充問題】（＊行数は本書に対応）

問１　「いと心得ぬ夢」（１行目）とあるが、どのようなことを「心得ぬ」だと言うのか。最も適当なものを選べ。

ア　鬼の犯した罪を、どうして証空律師が償わなくてはならないのかということ。

イ　鬼がどのような罪を犯して、証空律師のために大きな釜を用意しているのかということ。

ウ　証空律師が犯した、鬼が釜を用意するほどの深い罪とは何であるのかということ。

エ　証空律師が罪を犯したのに、どうして自分たちの夢に鬼が出てくるのかということ。

問２　「耳もとまで笑みまげて」（５行目）とあるが、この「笑み」について説明したものとして、最も適当なものを選べ。

ア　弟子たちが自分に嘘をついていることを見抜き、嘲り笑っている。

イ　自分の目標を必ず実現してやると意気込み、不敵に笑っている。

ウ　弟子たちの話を聞き怖くなっているが、無理をして笑っている。

エ　自分の望みがとうとう叶うに違いないと思い、大きく笑っている。

問３　現代語訳せよ。

①「いと心得ぬ夢なん見え侍りつる」（１～２行目）

②「披露なせられそ」（５～６行目）

③「いと心憂き貪欲の深さなりかし」（７～８行目）

【補充問題解答】

問１　ウ

問２　エ

問３　①よくわからない夢が見えました

②他言をしなさるな

③たいそう情けない貪欲（欲望のままに物事に執着すること）の深さであることよ